

令和5年度 倉橋学園グランドデザイン

国の動向

Society5.0 に向けた人材育成

Society3.0 工業社会 Society4.0 情報社会 Society5.0 超入門社会

- ①新学習指導要領の確実な習得
語彙の理解、文章構造の把握、読解力、計算力や数学的な思考力など基盤的学力の定着を重視した新学習指導要領の確実な習得
⇒ 個別最適化された振り返り学習、ICT環境、スタディ・07等を蓄積した学びのポートフォリオの活用
- ②GIGAスクール構想の実現・ICT教育の推進

新学習指導要領キーワード

- 社会に開かれた教育課程の実現
- 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」
- カリキュラム・マネジメントの確立

令和の日本型学校教育(中教審答申)

- 新学習指導要領の確実な実施
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 学校教育の質の向上に向けたICTの活用
- 働き方改革の推進

児童生徒

- 多様な対話がある学びを楽しんでいる。
- 異学年交流が盛んで学び合う風土がある。
- 地域に愛着をもっている。
- 体験活動に意欲的である。

- ▼基礎学力とコミュニケーション能力、考えを適切に表現する力に課題がある。
- ▼身に付けた知識・技能を、実生活の中で役立てるまでには至っていない。
- ▼自尊感情・自己有用感が高まりつつあるが、さらに高めていく必要がある。
- ▼地域、家庭生活においてセルフコントロールに課題がある。



ミッション

道なき未知へ突き進む「ひと」としての根っこを育てる

ビジョン

あこがれ・憧れられる育ちの環をつくる「学びの場」

学園教育目標

かかわる つながる 学び続けるひと
～ 未来社会に役立つことを見据え ～

目指す子供像

主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒

広島県の15歳の生徒に付けさせたい力

自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

研究主題

主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成

～ 豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくりと
自己有用感を高める生活づくりを通して ～

県・呉市の動向

広島県 教育に関する大綱

【基本理念】広島に学んでよかったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現
【目指す姿】一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりの実現

広島県「学びの変革」のさらなる加速

- 全ての児童生徒の「主体的な学び」の実現
- 本質的な問いを設定する力やファシリテートする力、教育活動全体をデザインする力、デジタル機器等を活用した授業スキルなど、教職員の資質・能力や専門性の向上
- 「個別最適な学び」による多様な学びの選択肢の提供

「呉市教育大綱」・「呉市教育振興基本計画」

- 若い世代が安心して子どもを産み育て、未来の人材を育てるまち
- 文化芸術やスポーツに親しみ、生涯を通じて学ぶことができるまち
- 小中一貫教育を基盤とし、「つながり」を重視した教育の展開

呉の学校教育

- 「未来を創る人材の育成」
～呉に学び、自分を磨き、未来を創る～
- ・防災教育の深化
- ・授業改善の推進
- ・個を大切にされた支援の充実
- ・働き方改革の推進・教職員による不祥事の根絶

◇家庭・◇地域

- ◇小中一貫教育に理解を示し、協力的な保護者が多い。
- ◇小学校、中学校が連携し、充実したPTA活動を行っている。
- ◇セルフコントロールに係る課題が見られる。

- 過疎化・高齢化・少子化が進み、地域での人間関係が限定的になりがちである。
- 先人に支えられた歴史・自然・文化・産業等の教材に恵まれている。
- 地域活性化を図る動きがある。
- 倉橋を支える諸団体(まちづくり協議会、遣唐使船保存会等)からの学校への多様な支援がある。
- 保育所が隣接しており、保小連携が行いやすい。



新しい時代に求められる資質・能力の育成

倉橋学園で目指す資質・能力

学習の 段階・ 能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	構造化され生きて働く概念的な知識を身に付け、自在に活用することができる。	実社会・実生活の中から見いだした課題について、多角的・多面的に考察し、論の展開や表現の工夫を工夫して、効果的に自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を自分のこととしてとらえ、自ら計画を立て、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。
中期	学習した内容や方法を正しく理解し、実生活や新たな課題の解決に活用することができる。	実社会・実生活の中から課題を発見し、集めた情報の中から必要な情報を整理・分析して考え、根拠を明確にしながらか、筋道を立てて自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を発見し、目標をもって友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。
前期	学習した内容や方法を正しく理解し、課題解決に活用することができる。	身のまわりから課題を発見し、集めた情報から考え、理由を明らかにしながら、順序よく自分の考えを相手に伝えることができる。	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。

- 多様な学習材と出会う、かかわる。
- 学びを「私」の未来や「私たち」が生きる社会へつなぐ。
- 自他の幸せのため、新たな価値を創造する。

何ができるようになるか
—学校教育の基本—

- 児童生徒の学習改善につなぐ。
- 教師の指導改善につなぐ。
- 学習評価の結果を教育課程の改善につなぐ。

何が身に付いたか
—学習評価の充実—

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現

「カリキュラム・マネジメント」実現

何を学ぶか —教育課程の編成—

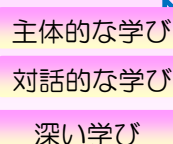
- 「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」の育成
- 学習の基盤となる資質・能力の育成
- 教科等の横断的な視点からの教育課程の編成(総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マップの活用)
- 校種間の円滑な接続
 - ・スタートカリキュラム(保小接続)の活用
 - ・高校を見据えた教育課程

子供の発達を どのように支援するか

- 個別最適な学びの創造
- 特別な配慮を要する児童生徒への支援
- ユニバーサルデザインによる指導の工夫
- 個別の能力に応じた日本語指導

どのように学ぶか —教育課程の実施—

- 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
- 教科等の本質に迫る「考える授業」づくり
- 豊かな対話から深い学びへつなぐ指導方法の工夫
- ICTの効果的な活用



倉橋学園ならではの小中一貫教育

学力向上部会

- 豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくり
 - 課題発見・解決の過程を位置付けた単元づくり(カリキュラム・マップと「学びのデザインシート」の活用)
 - 豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業サイクル(自己内対話→他者との対話→自己内対話、ICTの効果的な活用、個を大切にされた支援・指導)
 - 言語活動の充実による学びの土台づくり
 - 授業改善に向けた合同研修、小中接続を見据えた協働授業

生活力向上部会

- 自律と協働により自己有用感を高める生活づくり
 - 小中合同行事の充実(よさを認め合い、学びを共有)
 - 地域や異学年等との交流の充実(地域との関わりを大切にされた活動、施設一体型小中一貫教育校ならではの日常的な交流)
 - 主体的な生活改善に向けた取組(目標設定と振り返り、評価)

子供を支える教育環境

- 不祥事防止委員会の機能化
- 自分ごとの不祥事防止に向けた小中合同研修の推進
- 仕事と生活の調和を図る「働き方改革」
- ICT活用による業務改善
- 個に応じた支援と居場所づくり・人間関係づくり

安全・安心を守る教育

- 「自分の命は自分で守る」力の育成
- 「呉市防災教育のための手引き」「土砂災害携帯マニュアル」の活用、避難訓練の実施
- 倉橋の地域性に合わせた防災教育の充実
- レベルに応じた感染症対策の継続